862
68

国立国会図書館　タイトル『芋の子』 請求記号 862-68

ガラス使用

芋の子

和露文庫

八六三一六八

国立国会図書館　タイトル『芋の子』　請求記号 862-68

ガラス使用

浅草と申さ[illegible]日も過て
是のみくさ[illegible]秋の雨雲
人まい行も誰[illegible]心を兼て
心地よ[illegible]ま[illegible]窓の火燈
耳をそくに詠[illegible]
農業のる[illegible]
ふと[illegible]ふる[illegible]ゆく人笑[illegible]
と初[illegible]

玉金席

壬辰の秋八月宿[illegible]を[illegible]
金沢の[illegible]清風[illegible]
[illegible]興[illegible]酒[illegible]て[illegible]
[illegible]一句を[illegible]次[illegible]清[illegible]
江戸[illegible]の来[illegible]浦[illegible]鰐　元可
海[illegible]れ[illegible]島[illegible]是　玉金
塩焼[illegible]焼[illegible][illegible]焼[illegible]寂[illegible]て　立志
板の[illegible]月[illegible]出[illegible]　金角
旅人[illegible]鶴[illegible]奥[illegible]る　寛山
雨を[illegible]ん硯[illegible]松[illegible]脂　河東

かいろ紀樓は荒れ蕉徑
さいつぬ新れ梅と深閨 左柳
汐よ遠ひ風ゆ南ゆ一葉れ行而を
はしいまいつ安房かつふさ考
荒然ゆ小紙志のくゆ勝をおく
名月やたいぬ指れ戔戔ゆ 立志
濱ゆたかるゆ清きゆ月 寛山
乾きゆ八詩賓石ぞ寄ゆの月 蕉徑
夫那着よ蝋ゆ蝋ゆさ海賓原 左柳
蝶と突掉ゆ何ゆゆ月 金角

新月れ浦人ゆ昼ゆ顔 河東
笑ゆ紀ゆよ月れ真珠ゆ 玉全
人ゆ潮戸れ社よゆ考ん ゆ考
本立かゆゆ神風羽化ゆ
登仙ゆ考ゆ一時よ一曲ゆ
諸ゆ苦ゆ月ゆ似ゆ破芭蕉 玉全
空明よ掉ゆ流光ゆ行ゆ
瀟ゆゆ一ゆ
美人行里流ゆ中よ樹ゆ 立志
客よ尺八ゆ月ゆ甚声鳴ゆ

怨るしのうらとく

二道は蛾のまさを酔揚妃　玉全

暮かゝるとく

見てうたに苅へうるものすき　立志

泣うとく

夕やうや親さけす稲穀　全角

祈うるゆ

物いひて花小車や長つゝ孫　河東

西の方夏口といふ浦の江ほとり

武昌とうるまし鉦切や山川清しいり

翠とゝ〻〻〻

御産業の強人不拘ふ　金角
来行とゝ尺ゝ　ぶ槻つゝ男　玉金、
万代と豊四ナ　切せりなき　立志
國ゝ桜つゝ　同ゝ学文　金角
重箱ゝ下ふた　心　玉金
子孫の為の　栄ゝ　立志
ゝ中ゝ　ゝ　金角
自然ゝ戻ゝ　禁中ゝ　玉金
照ゝ　ゝ世ゝ　六十歳　立志
芭蕉ゝ影ふ　稲荷ゝふ　金角

伶人の文育めび月と文　玉金
任脉㊟　立志
志ゝ二郡　全角
種ゝ豆腐ふ　人の氣　玉金
目録ゝ　ゝ　寺　立志
ゝ蓮の上ゝ下ふ　池　金角

甲午秋

是菜八月の望ゝ稲堂ゝ歩して
赤金澤の江ゝあるむく客わつゝ

をの〳〵こゝろを高縄につゝ秋色
白雲をそこに落て木葉をとゝ
色清く日をさゝゆゝ宮こゝ
松籟か

届く目よりはつゝ遠秋海　玉全
張弓れ磯さはよー秋風　立志
小川の宿れ明ゆく景色一夜書肩
ゆと仰ぎを劣るあるとしれかり
思ひくらゝ戸くて秋人ゝ
朝思ふ仰ぎりや仰ぎ木香（ワレモカウ）　水也

蒼空のもとに松のつゝ　魯朝
花ゝうゝ人ゝ良屬漆　玉全
秋の森は社に結ハぬ木こよ初雨ゝを
笠　杉婦　市陽まゝと花ゝ
まゝて神こゝ思ゝ
ゝゝ語れ穂先（オキ）を苅絵立志
巫女ゝ無これ蓮れ蓮ゝ　双笠
行屋白紙を拾て第露　魯朝
鉢石や神の契れ代の秋　竹林
大裏江都をわつゝたゝれ地稲を

石のさゝ[illegible]　墨うら[illegible]
[illegible]

一たゝび大盛切や萩の葉　玉全

古郷は岩しらなみの水かさかな
河　ちるさくらけなる哉

蓼喰やいまさ淡しの食けん　水丸

草堂は賜ふもあぬる身に沼　立志

きぶ柿や口もはゝそ　英枝

市場のあまてらる鼎龍を[illegible]
あちめく市場なる野[illegible]　玉全

露ちんの休こゝ日はうれくさ[illegible]
[illegible]
蜻蛉のたゝ切る田ら哉　一渙
あふぐる月を連立て虾　銀葉
芽張は芦の水吸ふ蜻蛉かな　故一
蛙切や新蕎麦を送るの[illegible]孫　魯朝
なる西麦は村[illegible]何神[illegible]
けこちらう物[illegible]
なゝ麦やかゝ宮は蕎麦畑　水丸
露清し[illegible]　金角

惟子川は元やまとの橋の長て
元ほそ紀(ヨコミ)の葛(カヅラ)の葛(カヅラ)　河東
草鞋つくるこの橋の風俗ら海ら　双笠
名よ多くなりつつ上戸秋の夜　竹林
節義林と秋乃書日　故一
神奈川の低ちより見下せば京名代よ
多くなりとくのお清れ者清の入汐
古き名よ歌ら祢と此神を袖ら浦也
新呼ばむ
下岩にと尾花ちらむら袖ら浦　玉全

波しかれ岸よ写り芦袖ら浦　立志
旁よ紅せんそもら袖ら浦　全角
唐黍の間ら人くさら袖ら浦　三文
ほそ也の中れくよ武蔵相模乃境
ありく坂有境ちら坂と所原ア
此ふ所ちくのの絵人こは版和泉
妙寺りいしひならうきら
大仏を今葛花や翁州　全角
境保の一半黄ら　國境　立志
ここら大の境保坂元地蔵堂　玉全

戸塚より泊り数雨はしの中なれども
大震ひ勢ひ山の如く谷こゝ風起り
水涌かまひきき宿れひやし本嵐を
こゝとなりいしく声物をこく海こゝ
時ふ数まるゝとて四方の顧られを僕と
ゞ宵は往来かゝるゝ人ど合めをゝん
かゝ家紛よ思ひあるめせめるさ雨ゝと怒
なるゝあいて雨とひぬるゝ知

蓑虫の声ちゝ母ゝん細ゝと　玉全
ゝゝいゝ雨ゝ二ゝ割　玉志

原宿にわたりて海舟よりゝ
小雨ゝゝゝ雨見ゝゝれゝゝ移ゝ
尾張は背中ぬゝ兎金ゝ　新甫

吹ゝゝゝゝの

輪斗かゝりて
落雁の一ゝ原ゝ雨ゝ蛙　一瓦
野ゝゝゝゝゝゝゝ散ゝ一葉ゝ
よゝの雨ゝ木の実草ゝ寒人ゝ吹
ゝゝゝゝ

柳買ゝ寝覚めゝゝ園茶ゝ一漁

原中稲二三把の如き歌故一
離山八幡原の城の跡なりとや民所の
者等の話聚の時を始ふとぞ
ものゝ通ひぬもなさし
秋深し絶ぶる蔦さ世帯　玉全
園に人寂へ境内をらむる諸ふ
松老竹初めて樹昌菴濃香白雪池水
さゝゝ久し白鷺池水
農磬外面へ引きて方丈
まと奥ゆかしく行くもりみちふ

柘榴まつ赤の後林ゝみなんとなりたり
ものゝ庭めぐる弟しさ
本堂白あり洗ひ榜れ碑気　立志
やはれ乾坤うゝ秋晴　玉全
松岡のあり色ぬうさんへなつしみ
まゝ蔦紫を極ん名ぬ赤ハ
あれといろゝとなさ庭中に
寂すゝ方なんと云ふと交り
ゝ世を捨かゝる言葉ゝ
暮ぬ里の泡沫世世　立志

国立国会図書館　タイトル『芋の子』　請求記号 862-68
ガラス使用

物華ハ枝葉ニ繁ル　故一
建長寺ハ物ヨリ高キ苔ハ生ケル巻柏
の高キ杉の梢中ハ堂宮唐戸明
たるよ頼朝の三世ハ条九代鶴前ハ
たるなり香ハ誠ニちりきハ
そんそ庭ハ見事ニ掃ちらて
よりそ花ハ
柳ハ唱金のくる奥響　玉全
いて貴方ハ流のたる口　竹林
秋の境園奥ハ庭や洞の面　魯朝

世の海ハ静ハ一葉哉　水尤
花や実や小ハ九代梅紅ハ　立志
ふる坂ハ茶屋ハ有る限ル
さして中ハ
着のよ
買喰や乗屋中ハ一ハ散　玉全
青梅の聖天ハ雪のちりハ
登るたるハ坂ハ巌窟の内ハ
宮ハ此ハ
将軍一日疾甚ク時ハ

[illegible]小姓宮は前に御に[illegible]梅実[illegible]
是[illegible]則病[illegible]
[illegible]
母の[illegible]
母の腸[illegible]山姫杖[illegible] 立志
[illegible]
[illegible]千ス稲穂栗穂
[illegible]
[illegible]
秋は蜩の義[illegible]山[illegible] 故一

童の肌[illegible]
秋風の[illegible]姓山馬士[illegible]一尾
老乃幸[illegible]
[illegible] 河東
鶴の図[illegible]
[illegible]
多[illegible]路小路[illegible]橋二の馬
長大[illegible]
社の内は撞樓[illegible]四神の祠[illegible]
護摩堂愛染堂[illegible]

の[illegible]る面廊の[illegible]
[illegible]　[illegible]　鎌倉
右大臣の御詠

[illegible]
今[illegible]
[illegible]
木の実[illegible]
秋の[illegible]　玉全

[illegible]　祈願[illegible]
いり栗や[illegible]の声　一漁

[illegible]
芭蕉や[illegible]静の袖の声や賤　魯朝
千輛の車の銀杏木の子取　水丸
古の繁花の八咨の日の奉幣
夜の神[illegible]　[illegible]今八月
[illegible]虫乃鈴松[illegible]寺
[illegible]橋や木啄[illegible]高山　立志
鳥合原八昔入道崇鑑の雛太[illegible]合
地[illegible]今富[illegible]雛[illegible]太夢
[illegible]穂の組[illegible]　玉全

荏柄天神へ参詣て浮世を

埋もれけや則清き草の露　玉全

樗ちるかれ社や漏る雫　一漁

梅の実一粒ゑる木の雫　新甫

はゞ利れ中に撥無ふ浅　水九

かつぬく雫乃字の浅ぶかぶ　全角

なのりや松はれ中も梅ぶき　故一

小ゑ衣なびけ桜と風の穂綿哉　立志

一句人亭ゑ登ゑく風景をとゑ誠ゑ目

瞬く間なく口言葉を絶ゑ言や夢窓國師

天封人地許帰休致遠釣滄得自由

到此人眼皮綻河沙風景我焉瘦

妙句実ゑ今ゑ名詩人の瑞ゑ姫

唯ゑの大既を其ゑ

遠く思ひ深ゑ一紫ふ　立志

已往之姫雨を乃ゑ　玉全

四隅ゑ小鳥は井物をやかに　一漁

やゑ名ゑ川の清ゑ流ゑく浅ゑ中ゑ

小鮎のさゞめゑ　十はかゑ

こゑ三ゑ四ゑ人ゑ　と等ゑ

[illegible]ちる君よ堰
[illegible]のほとんなる河東
双[illegible]ハあるとて三夫一尾ハたくと声くも
故一[illegible]ちるひくく眼て綱をとり投也
なんぞ一ちもとるぬる一尾ぐ
[illegible]を捲てをるを押くるを
功[illegible]と出乃[illegible]きをくるで奥わるかく
[illegible]の奉白の一つ[illegible]本移
[illegible]ます宅間ヶ谷ヒけ
[illegible]ハ是ハ

十四

桃原[illegible]績[illegible]
地蔵の軒ふ[illegible]
[illegible]
けしぐ[illegible]

近[illegible]を実放密[illegible]　金角
[illegible]向や塩の漬[illegible]　柳茸　玉全
珠数[illegible]　鉦の[illegible]　立志
[illegible]　水九
谷[illegible]　銀葉
音[illegible]谷七郎や[illegible]　魯朝
竹ハ一[illegible]

くるまゝ川と言ふ流れあり流れて
筑紫にいたるの流れと行さかるなる
道はたゝるさくて往来と雨色
なるかたちハいかにもまことの
見ゆるもおもしろ　玉全
何用丸岩露はゆ面くるゝ川　故一
浪動はゝ数かゝる岩ハ
一望水とゝ岩はゆ面ゝ志ゝ
ゝ
影ゝゆる一望あやこ一日自　立志

ゆのそゝりて踏面かゝ
ゆゝゝゝの踏是面なる岩ゝ　故一
朝比奈ゝ切通しハ鎌倉ゝ
苔なゝかに莫ゝ
見下ゝの海ゝ露陰
上総ゝ石塔ゝ田の中ゝ
彩ゝ也
狗子農謄多鳴也稚乃雨　玉全
瀬戸の海ハ風吹上ゝ
出ゝ音ハ立ゝ切通　立志
銀簞

薬師堂の女供（セケン）うつくしき山とも　水丸

負ふ人誰心の移れ神ゆゑ　魯朝

皇鈇地蔵に者ノ西を相州東い武品なる

界ゆ地蔵と　呼へり

香ゆ有ものく菓子清師のくさな立志

声かりの所ワの行ゆ　玉全

三艘村ハ六浦のちゆ　昔唐船三艘

此所に者ノ故に名ゆ　海上を

ゆく立ゆ茶碗と　所ゆ　七しとそ

為ゆ戸也只ハ　伝て賣ゆ　玉全

利休ゆの料理ゆ　水丸

今ハ所ゆ　ゆ

杉風と俺といりゆ　相撲ゆ　魯朝

浦之口に入所と　雀浦ゆと云り也

りこ家ゆ　恰焼ゆ　漁父ゆ屋ゆ

長崎に　食ゆ　家に　求ゆ　各草鞋

ゆ　望ゆ　先東南の　山西ゆ

海絶景いかゆ　ゆ

笠を　る時に　海　間を　三人

奥を　ゆ　ゆ　海と　奥ゆ

あらさらめ示金沢の山ふ流声
ふる月出ッ
月や潮戸の蓋ぬ一星鐘一漁
腥き雲下し木末き農月　新甫
名月也ごるかく舟の片荷より　及笠
名月や帆のるさ船と引ふ　金角
名月也なるとうちと延ふ　紅　河東
名月也休世猟師の親　改一
名月や伊国色ず潮戸の砂　三交
名月や明方立人と右大将　一尾

ナセ

名月や額ぬ寄ふる鳶帽子嶋　英枝
此所や平ノ政子明神ロ御参詣有
御供の面く夜景ふ無者ふ所と地
浦嶋ふ

嘯義ふ此の時代や潮戸の月　玉全
名月ぬ遥合ふ今ふ岡ふ蟬　立志
名月ぬ遥合ふ今ふ岡ふ蟬て石ぬ各衣を
かんげふ迄ふ岩ぬふ蒙茸を
ふけふ中虎の尾を越ス龍ぬ背
を渡ふ仏ふ喉ふ八ふ嗚ふ山て
岩間ふ伝ふ清水ふ浮ひ

奮ふ我志ほう巻の雫かな　玉金

野路を行く石多き古戦場　立志

たくさん壺ゑてる満月よ　一渙

獨りとも〻物の書やう　之突

餐斎の字ハ下駄て来て　故一

拍子木常に徒歩中買　一尾

梅檀ハ屋敷を守るきぶし　新東

大工道具を持て静子　英枝

只今の武士の若ハ嘉也　金角

皆薫よ盛てあこがれの束　河東

十八

志ゝばくなる面ゝ集れて現ぬ　双生

いつちなまい袖ゝ奥の屑　玉金

十露盤を伊勢世原巡ける　三突

此家ハ是白ゝの鶏　新南

鶏ゝ華表のぼきい日ハ為て　立志

右近衛左も いつゝ桜　故一

孟蘭盆ハ明ゝなる染物屋　一尾

ものゝ平都て秋ゝ嘗　一渙

月見ゝ紅路沿業仇をつゝ　英枝

糊ゝ出しゝ綸る林ゝ　金角

花の橋和中かくもとどるのと　新甫
ぬる砥前るて武ハ陽岩　双笠
行水の音ま涼生と言るめし　河東
小紋の至極顔ま初まて　一瓦
あ切ま寸後も沿人皆をぬき　玉全
椿の木杓ぬ寺のかきゝ　三交
寒し扨を蜀油酒小数ほ　一澳
嘆ていらえれと袖ま寄年　英枝
傾城の恋い伏屋の森ゝて　全角
封じと切ゝぎかいづる猪口　玉志

親の名ぬ名ぬ竜眼ぬ馬ま有　故一
岡百くゝゝと迷ま山鴉　河東
鬢に迫き第ま人八鹿ま　双笠
笠しくゝ南び蚓蟷這ま　新甫
三猿の走ゝと七後の自　一瓦
簑ゝほゝの皇菱ゝ究　一澳
南ぢゝゝ平家ぬ紋は佛へと　玉志
四も体ぬれ拉ゝこゝび　玉全
妙ゝ油の凋言ま鼻ぬれ　三交
知ま孫法け仕也暦くゝ也　英枝

国立国会図書館　タイトル『芋の子』　請求記号 862-68
ガラス使用

静さハ御堂桜の咲けく　一漢
牛て戻るハ限元仙どの　金角
世間を南くしたの世者　河東
活し恐ましてぞ錆かくく　双笠
六ッの月水ッ脂ときみく麻　玉金
白げしてくる貸しお道　故一
長すふ紙ゑ切ゑ色ゑ人　新甫
遠傍紙のぞく海苔貝　立志
客来ちを夕ハ化ゑ前ゑ　一漢
たちを躑躅巧嘗で濃　一毛

廿

八重咲育て上ゑる神乗堂　金角
ヲ津坂本て振る風景　河東
蕨ゑりとどかん屋ゑ潜ゑき　故一
うまーいやめ雨降の肌　玉金
中将を兼ての衣紋白ひを色　立志
表ゑを学ぶ古方ゑ裏　乙文
人音の減ゑ絵ゑる草一のセ　一毛
手頁を計ゑ今の恵川　一漢
高月ゑ新ゑ塔を建ゑ　双笠
踊の側て紙魚ゑ　新甫

丹馬籠江戸表ニ出ル　英彼
きのふ義仁ゟ鑿の苦労　金角
推参仕候ハ　之交
氣ゟ無之ゟ湯ハ呑れら　故一
勘定ゟ　河東
林　いはの息を受ル　双笠
蔣侯師の苦ゟ発ル冬月　金角
光光ゟ瞬神　英彼
明後る語の訳を　玉金
行ゟ小僧ゟ　一瓦

ウ

出発所ゟ　ゟ志
七十二候　一の　水　筆
民心寺小係家参時の時世ゟ草創
有ゟ　ゟ　ゟ
の　ゟ　ゟ
心ゟ　ゟ　ゟ　ゟ　ゟ
休ゟ境門ゟ　ゟ　ゟ　ゟ
創れ　ゟ

一　諸軍勢甲乙人ゟ乱妨狼藉之事

一放火人之事

知れぬ四方の家の禁むしを今
まもし乾くるしるべ　玉全

けゝ所尾花ゝれを馬とも　玉全

橋桐の葉も雪吹くて武者四方の踏　立志

出来秋の戸垣とゝぬ面影かな　一漁

中の門洗たゝ井あり隨徒上人農

加持水ゝゝ

梁ゝゝ乾ぬ事ゝゝ　立志

水梨ゝ花身ゝ　玉厚

庭の蜜ゝ本屋ゝ白ひ出を沙へ林を
めぐ一漁筆を取ゝて

水戸の梅咲こぼるゝ

苓八月名ゝ月ゝ　弦月

曉梢ゝ霜ゝ　紙

此木の下ゝ深世ゝ結ば恋

唐の蜜ゝ恒ゝ　恒

池ゝ傾き質の雫ゝ

詮ゝ寂寥ゝ宿

淋書ゝ一熙

さへうけとて簾をかゝげくべて居ら
ものゝ曰く文永の頃唐人
此所に来あり此木の香を尋て
一日香と尋ねつゝ世人
なるを名を付ることゝ年遠なれ
ども木なるを知らずして
則彼あ直なる本なりと語り
侍れい沐勝さと山中を
香とし花なりも昔思ひ
もの〳〵を題め一句を吐

聞くとも樣の花や銀河 之志
木犀や麹よ一日の後の民 一漢
木犀乃香を境の姫ぬ 術甫
木犀や彩和よ人ぬ浮世 金角
木犀や回し鼻が光る手 双石
木犀ぬ間彩を探る 河東
木犀や来ぬ〳〵の子細 故一
木犀や牧ぬ人の下かぬ 一毛
木犀よ鳥の時間の若ぬ 之交
鮮ぬ雲ぬ木犀完を吹時 玉金

梅閣之詩

[illegible]寺之本堂に[illegible]
[illegible]七八寸歩の山ゐ寶誉和尚
世を又外ゝして此所ゝ住をり
一[illegible]を刀根氏不迷子家ゐ[illegible]
[illegible]の亭を建て名を梅閣と
[illegible]四壁皆松樹[illegible]
一[illegible]葉秋風ゐ[illegible]
[illegible]の晴天の雨し真下ゐ[illegible]
入[illegible]且の嵐船夕[illegible]漁火

[illegible]

乾坤[illegible]眼晴亭百年心と
[illegible]音[illegible]此所如海
右ゐ[illegible]見[illegible]行[illegible]
編編を[illegible]似[illegible]
又[illegible]友[illegible]文額を拙[illegible]
高向ゐ孤村分秋の[illegible]
[illegible]ゐ花ハ[illegible]
[illegible]支ハ鄙
貧[illegible]ハ素[illegible]
車[illegible]家を[illegible]塩[illegible]

国立国会図書館　タイトル『芋の子』　請求記号 862-68

ガラス使用

[illegible]

春閑有聲

[illegible]すの鶯の老つるや流日生　玉金

椋鳥の烟をさくや情の滝　一溪

[illegible]の上に出しも　河東

行鳥や志ゝらく[illegible]　銀葉

孤村雨

華ん[illegible]の[illegible]を穂の雨　玉金

秋面や夫婦の[illegible]　故一

四つ[illegible]の穂の雨　立志

[illegible]

陰中月や一輪[illegible]屋の犬　立志

水音も秋[illegible]の橋　河東

野[illegible]島

穂屋[illegible]いつ[illegible]　一溪

穂を起し限[illegible]　立志

秋の[illegible]　新甫

極[illegible]夕雲[illegible]　全角

末年も[illegible]の秋[illegible]　河東

山の色も眼[illegible]　双笠

昇殘る風花小かるしゆ沙汰　三東

朝毒に枕へくらべ　一瓦

稀まれて秋の思ひ　英枝

色多き帆小畫多き楼船　玉全

洲濱行ふ人影遠

去年此秋を思ひ

秋雁の如今もなを西よりかもめ　玉厚

梅岡より弁てらう

江の後下の宮を

新請せりとう

己日己刻一瓦白蛇を

はるゝとを祝ふ

濁り無き新なるて白芙蓉　玉全

新の志つ雨り八束地水　一瓦

望月に胆てゝ下さる町なりく　立志

各〳〵十五童子

賀〳〵

印鑰童

野に花を結び花を城ぼう　立志

宜芳童

[illegible]や[illegible]の[illegible]風の花　一渓

筆硯童

夕月やうのもとすゝの面　新甫

金賊童

秋の色丸臺[illegible]の[illegible]　金角

稲粒童

庭よ市とゝ[illegible]の[illegible]　河東

斗升童

水とゝ[illegible]暮[illegible]　双笠

飯榎童

白萩の[illegible]　衣裳童

織とゝ面ふ[illegible]　三吏

蛍養童

赤い誰裾[illegible]　一瓦

酒泉童

碎色ハ[illegible]の[illegible]　妻枝

愛敬童

穂と[illegible]内人數　元可

生命童

[illegible]

良心寺隠

天説

従者童

肉のこゝ[illegible]梱(ニキミ)も[illegible]

玉全

牛馬童

あ[illegible]

[illegible]

玉厚

船車天女徳

船車童

水陸兼此行

埜嶋吐秋氣

詠人一句清

良寺

四觀稿

良心寺は徽宗白王帝の鷹の畫圖有

[illegible]

[illegible]

[illegible]

卓彼胡鷹凡鳥莫朋羽
衣玉雪目耀金星昂、
志気矯〻武英

人〻仰、孰不怡情
宣和殿大學士臣伊執中謹賛

国立国会図書館　タイトル『芋の子』　請求記号 862-68

ガラス使用

[illegible]と請ふ事 教[illegible]

いさむ心[illegible]む[illegible]

春 遠

[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]朝[illegible]

[illegible]の[illegible]て[illegible]人

朝[illegible]見性の[illegible]や面白せ 蘭臺子

[illegible]ら清乃保[illegible]夏 不宣子

[illegible]ハ

[illegible]

[illegible]人[illegible]

[illegible]れ[illegible]陽 東周

[illegible]

[illegible]木枝やがくのごと 宋宝

小陽合[illegible]陽[illegible]女[illegible] 琴月

[illegible]も[illegible]

伊勢男[illegible]

[illegible]や伊勢男[illegible] 沾徳

[illegible]て破[illegible]を[illegible]陽 牧我

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]山 一和

[illegible]夜[illegible]雨蛙 掉舟

故実とゆかしき面白や

鶯の羽と誰か飛尾山　青流

うぐいすに雲とも霞やあらぬ雲　蓮子

下ぶくるる雲の眠やあらぬ雲　端例

よりてたまるもまつ春の雲　五菊

野心も紙尾の雲や其の物道　正與

市ゝ人連ゆかや春の雲　賀燕

冥実のふかしかうのわう成

りさやかてぬれて春雨ふる

俤保ゐめ乃とやかてやもとゝ後　立志

夏

あつしの雲は雲ゝ雲ゝ牧の

新年の雲の俤をはるかゝて

ゝ牧や牧ゝ牧ゝ陳ゝ清水　刀根　不遷

牧張ゝやりくゝ入て行ゝ毛　泉翁

町人の一汗なりやみゝゝの羽　笑種

翁雲は行ゝ道わりゝゝの雲　藜雨

二雲ゝゝゝゝくいゝゝゝ明安　中杢

はゝゝ雲義女ゝゝゝゝの夏衣　望月

日の夏ハ市ゝ雲を涼ゝ茂　山口　渋薇

和風
詞言
和雅
茲少
記九
雨橋
眉川
十九

沾洲
浮生
一漁
山夕
湖十
堤亭
庵山

秋

国立国会図書館　タイトル『芋の子』　請求記号 862-68
ガラス使用

早稲ちらす小雨に蕎花の庵　北枡

被ちらすや濡る雁　桐江

八月西天高。胡鷹白錦毛

下濡風乱る雁の鍋　吟柱

矢ぐろ尾に浮吸とぬるる秋の夕　素丸

船食や武庫を砕し飛雁　米沢　月夕

中刺は山茶の実に小雁捨　仝　探谷

日和ゑのおされぬ雁の点ぶ　水陽

野の秋や雁より下りて力竹　陌律

隼の鷹ぐる亀しや太神樂　銀葉

蕎麦の花羽蕎つてのしし

未だけさ秋の山の下草

誰待ぐ花形をむこ力竹　桃翁

秋は踏ぬ蕎や花蕎　周竹

早稲の香や新蕎の京紙蕎　杏花

鈴ぶ蕎の蕎出れ朝ぐ蕎哉　河東

ケ秋蕎や野ぶ世ぶ小竹の蕎　双笠

秋流て蕎に動かぬ風と蕎や　故一

集の夕ぐ桐の一葉ぶ邪　三交

霧時の結ぶ蕎つて日新の毛　竹林

少年は臂よりかゝる竹　如蒿
雪は降るとも六尺たる投網の　纖角
大名の屋敷や、ちん鳥　和墨
茶屋山海東青しちゝ　銀弄
鷹を手に炉中を遠う吹掛る　諾自
夜居よりも鏡を合せる朝月　銀吏
うち板や石ちりはまさる　和泉
茶屋の法師大緒の金の字　波碇
はちは鷹のまた家好　補船

待宵は変らぬ口鉢のかしこう　櫻畦
夏の夜の連ゝ夜寒　菊晩
鶴鷹や裾しまる滝の切　柳舟（来民）
東軍は鶏ちゝ縮の兄鶏　柳枝
翁鷹に行縢の関行　一井
灯をあつらへ近くに重ね
鷹は羽や宣和の古び　歩架
煙けりて物を鷹の夜の鷹　栖鳥（宇都宮）
鷹の見に幾世さしの鷹飼　竹子（今）

国立国会図書館　タイトル『芋の子』　請求記号 862-68
ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

本かたのみくらもたかやの御山　十尺

陸奥の一二の巻ものきれ

久久の巻ものの帝世て帰る　鶴泉　浪巻

初物よ野さわの名もやもたかや　星東

如もてはやし山里やもれて

巻を見る巻物仕

遠ひかもて巻ものの消ゆれ　立丈

霞人名成ぬもて立ものの中陽子　冠子

巻紙と事問の隅田や巻さい　三鉢

巻道の山口祭所ものもさい　立以

特人の知ぬ物ふるもつ

古代松皮さつ

何島を松皮ほりしやとへ　玉全

つ歌代鷹の物ふ絵ほり　玉厚

古けるも筆ものもさ　玉山

ものれ府の駅ものもの　玉盛

解名代筆皮ハ鞍もむしひ　立志

唯浅大のものもの

雄の名ものもの

名を解名ものもの

山の形の鞍ハ

むしひハ鞍ものもの

三ヶ浦とゝ遠く春日の明神へ
向つゝ行道くの風景
坂中の新さきてなの実結れて
古よ亀ゝ行たる野行んてゝ
色〻三偏分
雪舟の隈も一ふさ海士の雲　立志
山の色移ゝ入江や筆すゝ義　玉全
境内よ名水あり深して清
小ゝ流ゝ岩ゝを流て鏡ゝ井　寛山
星合の森ゝ向て鏡ゝ井　玉厚

沿岡ゝ流ゝ里て名ゝ山ゝ
後園よゝて木のゝ上ゝ
榜ゝ門ゝ流ゝ新の堀ゝ　立志
鄙ゝも仙ゝて近場ゝ
つゝ流ゝ新ゝ戯れて極ゝ楽　玉室
さゝ橋ゝ今雪ゝ山ゝ立志
見渡ゝ桃ゝ島
毋ゝつゝ子に張ゝて木ゝ　玉室
朝ゝ東ゝ色ゝ宮ゝ木ゝ弐　立志
三ヶ浦の磯ゝ岩ゝ

桟は奥のまさ神のとのやま
砂は浪のうつるに投投やう
綾とゝ砂のうつるきや鶴鳴　立志
宵よりの汐の砂やの栗の穂　寛山
天晴るめ一ケ遠く海潤して
孤帆遥と本白の巌有り
一斉と頃を入り無とくとくと
景色よ去るの人の白波
ゝるよ投しして
海上一月

月や海只うつる成せを浸し　立鶴
海人
風荒て鐘の作寝もかゝ城　租江
秋来ぬと海も鶴く鶏の声　桃魚
明方に近くと藻の塩竈　篠風
塩屋
塩つけ籠や跡沖の秋　啓章
一葉衣陸の神ゆきゆ　志訊
浦れ家や伝木の中にうくん　始白
ゆの形も御製を月れ伝衣　保格

漁火　芋蔓

りんりんや所帯の火打ち　雨夕

漁火や髪もくしけ遠の星

苔蓙　立伯

苔蓙や部屋の隅の月　一東

連雀師よ泊りとも蓙の月

秋の月苔ぬれ蓙の傷剥　一葉

千鳥

紅葉や湯ぬるく男ぬる　秋要

漁村や衣うすく衛部　停雲

卑

所糸流千尋の長し秋の棧　立龜

秋色に紀古伝説の岩屋　苔沙

鄭約

ゆるぎなく橋は歯を挽すき新　古好

粉縄

冰を織粉縄小影と山の色　市交

約束よ古の塵掃粉縄部　千丈

網引

曳網や貝ぬくるを紫蘇やう　竹子

酔ぬぎを水勇の秋の炙　立鴨

突渡船して東の方なる
出船あるを乗てゆく
課と彫くし女浪を
遊戯ちし竹筒を振
そうきや月ち懐くすれ貝玉厚
野ち鳥や初雁かけて行貝玉屋
蛤の中の雀乃汐晴しか立志
杜戸明神へ詣て各頃幣一遍ふ
むらもとられた江の海浪ちたち
山を下て小樹ちそ寄ちあり樹

海面をよして流れるう如し杉根ふ
東下流く苔乃匂ひもちくきり
雪を参詣中く流の如戸ふ立志
然程ちる書ケもん柱乃あちり
此一句と海ち後の奥をとし舟を
去る年散人蕉徑を尋ひし時
海の面と京もちつるもるく
浦ちる浦の名後
とロもちきちれ一そ見せく
なつ此岩上京乃汐指形をうま

[illegible]

うつり柔の松の[illegible]六野の何り立志

[illegible]たりぬ[illegible]て酒[illegible]前損撲　玉金

[illegible]句と吐翁[illegible]て碁盤[illegible]

むくもくもひの勢[illegible]あり

社中景

千貴雲

大名[illegible]枝[illegible]つ[illegible]麺　玉金

頼朝腰掛松

端郷の[illegible]も昔雄夕寺力　仝

朝[illegible]岩

[illegible]雨[illegible]峰[illegible]声[illegible]の

海上三四里と聖し

鶴[illegible]声[illegible]山[illegible]　立志

頼朝泉水

岩間より清冽[illegible]水あり昔

[illegible]の[illegible]の[illegible]て

是と拾へば神物也[illegible]の

[illegible]海[illegible]帰[illegible]

蝦

海[illegible]て秋[illegible]　仝

国立国会図書館　タイトル『芋の子』　請求記号 862-68

ガラス使用

此神社海辺の景を物語
清浄の一句と清浄なれ
唫とし此一集は大尾なり
なり

紬綱ゝさ放ち髮して寒ふ　沾徳
眼の及ぶ魚見秋なり　財　玉全
もゝや月初し起て大遊り　諾自
百敵の里輪苗字年ん　立志
一代は二度の書無南年浮生
ゝれし此時南ゝ海執筆

相撲よ来ゝ雷動の家　青峩
被ゝて越ゝ関のけゝ恒　沾洲
理不尽ゝ親ゝ極て南ゝたゝ　一漁
情念仏は葛藤乃ゝ　銀葉
明るのゝ合ゝ青て加根のる葉　蓮子
膝ゝかゝ南ゝ年耕の老　沾徳
世の年ゝ男ゝ子ゝ水蟹　玉全
絲瓜ゝ入ゝ赤ゝの我　諾自
遊民の寅れ買ゝく宿の月　立志
音ゝ系ゝ廻ル七曜　浮生

国立国会図書館　タイトル『芋の子』　請求記号 862-68
ガラス使用

和泉式部 後拾遺 稲荷社の下 沾州
後住て免を蒙ける 一漁
當よ今迄もしん室杜氏 銀葉
且々つくる京悔の塵 青家
うつもり君抱ぬる袖縁小 沾徳
うつ伏ぬけり松乃庇 蓮子
近代の湯盤さ面く池の月 一漁
誰か紅梅の百香多共爲 立志
菊の香ハ此荷解て出すなり 浮生
ゆ流ハ鞍馬女てい志間 玉全

ウ

蕾くを中愛ふく粉ひ使者 諸自
鞍よ醉て居ら水島 銀葉
取巻て大名細工てなれ 青峩
他所の古蔵も此所の松 沾州
山今清ふ出ふ横尾寺 立志
石よ海ふ里兩乃贄 沾徳
神垣の汚黄よ咲て結ける 玉全
斗橋の下乗遅牛も淀 浮生
人やりの屋間振ふ家の孫 蓮子
春ハ枝張ふ香利 青峩

[illegible]

[illegible]

[illegible]

帝国
862
68
14224

国立国会図書館　タイトル『芋の子』　請求記号 862-68
ガラス使用

五味荄

国立国会図書館　タイトル『芋の子』　請求記号 862-68

ガラス使用